

高等学校

① 特別養護老人ホームにおける高齢者との交流

- ★「体験」を取り入れた指導方法の工夫
【実践編】事例24：一人暮らしや体の不自由な高齢者との交流・ボランティア体験の取組
【指導等の在り方編】P27～29

② 生命倫理について考える

- ★児童生徒の発達段階を踏まえた指導方法の工夫
【実践編】事例30：高等学校における取組
【指導等の在り方編】P30～31

特別養護老人ホームにおける高齢者との交流会

総合的な学習の時間

1 題材について

近年、人口構造の高齢化が進み、高齢者の人権についての認識や理解を深めることが求められているが、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化に伴い、青少年が高齢者とふれあう機会は徐々に少なくなっている。

高齢者に対する尊敬や感謝の心を育て、高齢社会に対する基礎的理解や介護・福祉などの課題に関する理解を深めるためには、生徒が自らの行動を変容させる要因や、内面における人権課題への自覚の深まりを意識した体験活動を取り入れることが重要である。

本題材では、生徒の興味・関心や進路等に応じて、「福祉」について学習する生徒が、知識や関心・意欲を深め、自己の生き方や進路について考察する具体的な体験活動として、特別養護老人ホームの訪問を行う。

高齢者との交流により、福祉や介護に関する関心・意欲を高め、人権課題への自覚を深めるとともに、相手の立場に立って考える想像力や、それを行動に移していこうとする態度を養う。

2 主な題材のねらい

◇特別養護老人ホームにおける交流活動に主体的に取り組み、相手の立場に立って行動する力を育てるとともに、高齢者とのふれあいを通して、自分の生き方について考えを深めることができるようにする。

◆他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を養う。

<技能的側面>

3 指導のポイント

○取組の全体を通して、生徒が自主的に計画し、考え、感じ、行動することができる活動となるよう組み立てる。

○高齢者の豊かな経験や知恵など交流会で学んだことをもとに、自分のこれまでの育ちや自分に対する家族の願い等を見つめ直し、これからの生き方に積極的に生かしていこうとする姿勢をもたせる。

○体の不自由な高齢者に対しては状況に応じて多様な動きが求められるので、相手の方の立場に立った援助や基本的な介護が的確にできるよう指導・助言する。

○活動後には、学習の成果などを伝え合う場を設定する。

4 学習の概要（11時間取扱い）

※ → 「6 展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>1 実行委員会を組織し、代表者数名で事前訪問をする。（放課後）</p> <p>2 ふれあい・交流（ワケI-ツヨ）活動のために話し合い、計画を立てる。（2時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちに求められていることは何か、また、自分たちにできる活動は何かを考えさせる。 受身的な体験活動でなく、生徒が主体的に計画し、行動し、学ぶことができる活動内容となるよう支援する。 必要に応じて、放課後に施設との事前打ち合わせを行う。
<p>3 ふれあい・交流体験を行う。 （7時間）</p> <p>＜全体活動＞</p> <p>○車椅子の操作や食事の基本的な介護の仕方を学ぼう。</p> <p>＜体験活動：グループ別＞</p> <p>○対話をしてみよう。（共通）</p> <p>○食事の介護を経験しよう。 （班別体験活動1）</p> <p>○ふれあい・交流を深めよう。 （班別体験活動2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の身体状況や用途に応じて多種類の車椅子が使われていることに気付かせる。 生き方の多様性を受けとめたり、共感したりすることができるよう支援する。 相手の方の状況をよく考え、自分の考えだけで行動しないようにする。 全員が交流できていることを確認する。かわりかできない生徒には、言葉かけや支援を行う。
<p>4 全員で感想発表会を持つ。（1時間）</p> <p>5 施設並びに高齢者の方々へ手紙（お礼状）を書く。（1時間）</p> <p>6 写真・作文など文化祭展示のための準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発展的に学習や活動を進めていけるような視点を持たせる。 自分の生き方や職業観を見つめるとともに自他の人権を尊重しようとする意識を持てるよう支援する。 写真や作文を展示する場合は、同意をとっておく。

5 準備

- 施設へ事前訪問を行い、担当者と入念な打ち合わせを行う。
- ふれあい・交流活動のための準備をする（自己紹介カード・ネームプレート等）。
- 次に続く活動または後輩の活動につなげるため、記録ノートを作成する。

6 展開例（7時間取扱い）

体験的な学習

<目標>

◇ふれあい・交流活動を通して社会を見る視点を広げ、自らの生き方について考えを深める。

◆自他の尊厳に気付き、相手の立場に立って考え、行動していこうとする。

<価値的・態度的側面>

主な学習活動	○教師の支援 ◇◆評価等	備考
<p>全体活動（午前）</p> <p>1 開式・オリエンテーション・施設見学</p> <p>2 車椅子の操作や食事の介護の仕方を学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子のことを知ろう ・食事の介護方法を学ぼう 	<p>○施設の規模や参加人数に応じて適宜班分けをしておく（本例では2班とした）。</p> <p>○施設の方から、車椅子の操作や、食事の介護方法についての説明を受け、高齢者の安全を考え、適切な活動ができるよう指導する。</p>	<p>◇持参するもの（個人）</p> <p>1 筆記用具</p> <p>2 体操服</p> <p>3 上履き</p> <p>4 運動靴</p> <p>5 タオル</p> <p>6 弁当（全体）</p> <p>カメラ</p>
<p>班活動（午後）</p> <p>1 食事の介護を経験しよう。（体験活動①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話 ・散歩 ・食事の介護 <p>2 ふれあい・交流を深めよう。（体験活動②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話 ・ふれあい・交流（レクリエーション） 	<p>○午後の班活動では、体験活動①と体験活動②に分かれ、活動を行う。</p> <p>○対話では、一方的に話す、あるいは聞くだけにならないよう支援する。また、高齢者の生き方に触れ、共感的に受けとめることができよう支援する。</p> <p>○高齢者とのふれあい・交流活動を通じてコミュニケーションが深まるように支援する。</p>	
<p>・車椅子風船バレー（介助役を務めたり、車椅子に乗って一緒にプレーしたりする。）</p> <p>・厚紙の魚釣り ・すいか割り</p> <p>・特製カルタ遊び（地域性を生かしたもの）</p> <p>・折り紙など</p> <p>※高齢者から技術を学ぶことができるようなものを取り入れる。</p>		<p>折り紙</p> <p>古新聞紙</p> <p>厚紙</p> <p>風船</p>
<p>全体活動（午後）</p> <p>1 まとめ</p> <p>2 お礼の言葉</p>	<p>◆高齢者の気持ちを考え、相手の立場に立って介護や交流をしていこうとする。</p> <p>○「お礼の言葉」では、体験を通して感じたことを取り入れるようにする。</p> <p>◇交流活動で学んだことや感謝の気持ちを伝え、普段の生活や自分の生き方に生かしていこうとする。</p>	

7 活用例

<小学校高学年>

(例) 「総合的な学習の時間」等で、学級単位で交流する。

車椅子体験、合唱発表、料理作り等のふれあいを通して、主体的に計画し、実践する力や態度を育成する。

<中学校>

(例) 「総合的な学習の時間」(福祉体験)として本事例をもとに計画する。

(例) 生徒会活動またはボランティア委員会等による自主的な活動として、地域の社会福祉協議会や特別支援学校主催の行事等(スポーツ大会、収穫祭等)へ参加する。

8 資料

<車椅子の扱い方の学習の様子>



<参加者の感想>

私は人と話をするのがあまり得意ではないので、最初はとても不安でした。認知症の方がいる所で掃除をしていて、どうやって話しかけていいかもわからない時に、近くのお年寄りが優しく話しかけてくださいました。そのあと少しずつですが話せるようになりました。すいか割りも一緒に楽しくやることができました。お年寄りの心のやさしさに触れることができたことはとても嬉しかったです。私は学校でもあまり人と話すことが好きではなかったので、これをきっかけに自分から友だちに話しかけてみようと思います。人を思いやる心を大切にしていきたいです。

もう一つ思ったことがあります。自分の祖父のことです。祖父は少し離れた所で施設に入っています。最近ほとんど会っていません。小さい頃の思い出しかありませんが、ある時母から「おじいちゃんは認知症がだんだんひどくなっている。」と言われました。会いに行っても私のことをわかってくれないかもしれないけど、それでも訪ねてみようと思いました。私にとっては大事な家族である、あらためてそう思えたのも今度の体験があったからだと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

氏名_____

《本日の交流体験を振り返ってみよう》

1. 次の各質問項目のどれに該当しますか。○をつけてください。

A はい B いいえ C どちらともいえない

- | | | | |
|------------------------------|---|---|---|
| (1) 福祉に関する関心が高まった。 | A | B | C |
| (2) 積極的に話しかけることができた。 | A | B | C |
| (3) 自ら進んで行動することができた。 | A | B | C |
| (4) 他の参加者と協力して活動することができた。 | A | B | C |
| (5) 相手の立場で考えたり行動したりすることができた。 | A | B | C |
| (6) 高齢者の方々の知恵や生き方に学ぶことができた。 | A | B | C |

2. 自分の言葉で書いてみましょう。（箇条書きでもよい。）

【よくできたと思うこと】	【難しいと感じたこと】	【職員の方から学んだこと】

《交流体験を通して何を学び、どう感じましたか。今後にもどう生かそうと思いますか。》

～今までの自分の生活や考え方を振り返りながら書いてみましょう～

[指導者記入欄]

生命倫理について考える

特別活動（ホームルーム）

1 題材について

現代社会においては、科学技術の急速な発達に伴い、遺伝子操作やクローン問題など生命倫理をめぐる諸事案が深刻な問題となっている。

このような問題について、相反する観点から論理的に考えさせることは、社会規範の相対性と「人権」の持つ普遍性についての認識を深めさせていくことにつながる。

生徒は、知的にも情緒的にも人間や社会に対する認識が深化する時期にある。他者の存在を受容し、多様な価値観をお互いに認め合って生きていかなければ成立しない一般社会の在り方を、知的にも体験的にも認識できるようになっている。

本題材では、社会事象の持つ多面性に気付かせるとともに、ディベートの手法を採り入れることにより、命をめぐる問題について自らの課題として引き付けて考え、生活に生かそうとする態度を養う。

2 主な題材のねらい

◇生命倫理をめぐる問題について、意見を交換し合うことにより、多様な価値観を認め合い、命をめぐる問題を自らの課題としてとらえ、自分の生活に生かしていこうとする態度を育てる。

◆人権の観点から自己自身の行為に責任を持ち、行動しようとする。

<価値的・態度的側面>

3 指導のポイント

○それぞれの立場からの意見を、相手に伝わるよう組み立てるために、情報収集や資料作成の時間を十分に保障する。

○基本的人権や生命の尊重等から外れた論議になることがないように適切に指導する。

○単なる知識・理解に止まることがないように、自分の問題として捉えるよう指導する。

○自らの意見の主張だけでなく、相手側の主張を良く聞き、物事を多方面からとらえるように指導する。

4 学習の概要（4時間取扱い）

※ → 「6 展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>1 オリエンテーション （1時間）</p> <p>○生命倫理をめぐる諸問題を知る。</p> <p>○ディベートの基本的な事項を理解する。</p> <p>○ディベートについて、学習の見通しを持つ。</p> <p>○グループに分かれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝子操作、クローン、臓器移植、尊厳死などについての情報を提示する。 • ディベートを行うことの意義や方法、ルール等について理解を深めさせる。 • 生命倫理をめぐる問題のディベートを通して、互いの考えを深めていくことを伝える。
<p>2 テーマごとに、2つの立場に分かれ、ディベートの準備を行う。（放課後）</p> <p>○賛成派、反対派は、発表資料やシナリオ、質問書、反論書を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各派ごとに資料を収集するが、法的根拠を含め、幅広く収集するよう指導する。 • 賛成派・反対派の発表用資料などを点検指導する。
<p>3 ディベートを行う。 （2時間）</p> <p>○テーマごとに、ディベートを行う。</p> <p>○ジャッジを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 他のテーマ担当のグループは、タイムキーパーやジャッジを担当する • ジャッジはグループ内で話し合い、根拠を示した上で勝敗を告げる。
<p>4 新聞を発行する。 （1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 作成された新聞をもとに、生徒の活動のよさを積極的に認める。

5 準備

- オリエンテーションで提示する資料を準備する。
- 資料収集のために図書室やPC室の利用を計画する。

6 展開例（2時間取扱い）

協力的な学習

<目標>

◇ディベートを通して、多様な価値観を認め合い、命をめぐる問題について自分の考えを深めていこうとする。

◆様々な情報を収集・吟味・分析し、グループで協力して建設的に問題解決に取り組むことができる。

<技能的側面>

主な学習活動	○教師の支援 ◇◆評価等	備考
<p>1 ディベートの基本的事項を再確認する。</p> <p>2 学習の目標をつかむ。</p>	<p>○ディベート実施上の注意点を再確認する。特に、個人への攻撃とならないことや、賛成・反対それぞれの立場に立って進めていくことを確認する。</p>	
<p>命をめぐる問題についての考えを深めよう。</p>		
<p>3 第1ディベートを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 肯定側立論（3分）</p> <p>② 準備時間（1分）</p> <p>③ 否定側質疑（2分）</p> <p>④ 否定側立論（3分）</p> <p>⑤ 準備時間（1分）</p> <p>⑥ 肯定側質疑（2分）</p> <p>⑦ 準備時間（2分）</p> <p>⑧ 否定側反論（3分）</p> <p>⑨ 肯定側反論（3分）</p> <p>⑩ 判定</p> </div> <p>4 第2ディベートを行う。</p> <p>5 活動を振り返る。</p> <p>○ディベートの感想や気づきを話し合う。</p>	<p>○原則として進行役の班の進行により進めるが、時間超過や議論が本題より離れた場合は教師が指導し修正する。</p> <p>○ディベートに直接関わらない生徒にも、議論の内容をしっかりと聞き、テーマに対する認識を深めるようにする。</p> <p>○ジャッジが勝敗の判定をするが、勝ったほうの論理が正しいという訳ではないことを説明する。</p> <p>○判定を含めて、全員で反省を行う。</p> <p>◆グループで協力し、建設的に問題解決に取り組むことができる。</p> <p>※ディベートの形態や時間については、立論や反論を2回にするなど学校の実状に応じて変えることができるが、主張する機会と反論する機会は同じ回数とする。</p> <p>○方法の反省だけでなく、命をめぐる問題について話し合うようにする。</p> <p>◇命をめぐる問題について考えを深めていこうとする。</p>	<p>ディベートのための資料</p> <p>座席配置</p> <p>時計</p>

7 活用例

<小学校・中学校>

○児童生徒の発達段階を踏まえ、ディベートの題材を教師が示し、命の大切さや人権に関することについて考えを深める。また、その際、情報の収集方法やディベートの進め方を簡易化するなど工夫する。

8 資料

<ディベートの展開例>

【論題：クローン動物の是非】

- ① 肯定側立論（3分）
クローン動物を作り利用する点から論じる。
- ② 否定側準備時間（1分）
肯定側の立論に対して疑問点等を整理し、質問の準備をする。
- ③ 否定側質疑（2分）
整理した疑問点を質問する。
- ④ 否定側立論（3分）
クローン動物を作るべきではないという点から論じる。
- ⑤ 肯定側準備時間（1分）
否定側の立論に対して疑問点等を整理し、質問の準備をする。
- ⑥ 肯定側質疑（2分）
整理した疑問点を質問する。
- ⑦ 準備時間（2分）
相手の主張に対する反論を作成する。
- ⑧ 否定側反論（3分）
肯定側の主張に対して反論しながら、自分の主張をまとめる。
- ⑨ 肯定側反論（3分）
否定側の主張に対して反論しながら、自分の主張をまとめる。
- ⑩ 判定
勝敗を決めた理由を論理的に説明する。